

都市再生整備計画 事後評価シート  
魅力あるまちづくり総合整備地区

令和2年3月

埼玉県長瀬町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	長瀬町		地区名	魅力あるまちづくり総合整備地区		面積	315ha			
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	506百万円		国費率	0.4			
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路:幹線1号線、公園:蓬莱島公園、長瀬地区公園、井戸地区公園、本野上地区公園、地域生活基盤施設:耐震性貯水槽(長瀬地区公園)、備蓄倉庫(長瀬・井戸地区公園)										
		提案事業	なし										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	本中143号線			地域優良賃貸住宅事業の中止による影響により事業中止			若者定住者増減率抑制の指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く				
		提案事業	なし										
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	なし											
交付期間の変更	当初	平成26年度～30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
	指標1	観光入込客数	千人	2,319	H25年度	2,349	H30	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標2	若者定住者増減率	%	△ 21.8	H25年度	△ 18.5	H30				あり	地区内の交通利便性が向上するとともに、住民及び観光入込客の安全が確保された。	R3年2月頃
	指標3										なし		
	指標4										あり		
	指標5										あり		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				毎年、県発表資料をもとに確認を行う。				
	住民参加プロセス	住民説明会			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も町民の意見を聞いて、利用促進を図る。				
	持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				引き続き、多くの町民に親しまれ、利用される施設として充実させるため、町民のニーズを柔軟に反映できるように、施設管理者に促していく。				

## 様式2-2 地区の概要

魅力あるまちづくり総合整備地区(埼玉県長瀬町) 都市再生整備計画事業の成果概要					
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 観光のまち「長瀬」の発展と若者が集う魅力あるまちづくり 目標1 観光入込客数を2,319千人(H25)から2,349千人(H30)までに3万人増加 目標2 40歳未満の若者定住者の減少率を21.8%(H25年度)から18.5%(H30年度)まで抑制する。	観光入込客数	単位:千人/年	2,319 H25	2,349 H30	2,989 H30
	若者定住者増減率	単位:%	△ 21.8 H25	△ 18.5 H30	△ 19.8 H30
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路整備事業により地区内の交通利便性を向上するとともに、観光スポットを結ぶ道路が整備されたことにより、住民や観光客の安全が確保されたほか、観光資源の有効活用を図ることができた。</li> <li>住民の意見を反映させた各地区公園は多くの児童・保護者・高齢者など地域住民に利用され、子育てしやすい環境が整えられた。</li> <li>若者定住者の減少率の抑制という数値目標は達成できなかったが、減少率の増加傾向に歯止めをかけることができた。</li> </ul>				
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主たる基盤整備(ハード)はほぼ達成されたので、今後は新たな観光資源の開発を進める。</li> <li>道路未整備箇所の解消のため今後は単独事業として実施予定。</li> <li>自動車利用者向けの駐車場情報の提供などにより、交通混雑の解消を図る必要がある。</li> <li>移住定住事業に関するパンフレットの配布や広報・HP掲載等によるPRを強化する。</li> </ul>				